

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大学院指導教員の研究専念時間を確保する。	→担当科目数の適正化と職務分掌の公正化(時間数)。外部研究資金への申請数、採択数、採択率。	B	B	B		
2. 大学院生の研究成果発表を促進する。	→大学院生の研究成果発表数。	B	B	B		
3. 教育研究を支援する環境や条件の整備; 個人研究室の整備、教育設備・機器の充実化を継続する。	→個人研究室使用に関するニーズアセスメントのデータ。	C	C	B		
4. 学内倫理委員会による「人を対象とした臨床・調査・実験研究」倫理規程を厳格に適用する。	→学内倫理委員会の審査を受けた研究申請数。	C	C	B		
5. 各種研究助成金制度(個人研究費、学会出張費、大学の国際発表助成金制度)の継続的発展を確認する。	→各種助成金成果報告書	B	B	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度において、文学研究科教員の科研費採択課題数は新規・継続含めて21件（新規採択率=44%）、また本学の大学共同研究に採択されたグループが3件あり、教員の研究活動は概ね順調に展開している。
目標2	文学研究科では大学院生の高水準の研究成果の発表を促すための研究支援制度を設けているほか、各専攻や領域が持つ紀要、年4回刊行の人文学会機関誌「人文論究」によっても院生の研究成果の公表を可能とする環境を整えている。2011年度にあつて研究支援制度を利用した院生数は学会発表を主として24名、「人文論究」に研究成果を発表した者は5名であった。
目標3	2011年度は新築された第一教授研究館本館への旧館及び第二教授研究館からの教員移動があつたが、移動先の個人研究室の平均面積は22.3㎡で第二教授館の16.8㎡より広く、教育研究環境が整備されつつある。
★ 目標4	2011年度において、学内倫理委員会による「人を対象とした臨床・調査・実験研究」への申請者・申請数は6名17件であり、10件が承認、7件が条件付承認となった。
目標5	研究活動を支える個人研究費や学会出張旅費は、2011年度も前年度と同額で一定額が保証されている。大学の国際発表助成金制度を利用した教員は2011年度は6名であった。
備考	